

JAとまこまい広域

燃
え
る
火
焰
SANSAN
光り輝く



特集 令和4年度冬期組合員懇談会主要意見集約(Q&A)

むかわ町穂別地区のさくら認定こども園の園児と園長

JAとまこまい広域
JAとまこまい広域広報誌
No.244

■編集・発行■

TEL 0145-272241 FAX 0145-273941

JAとまこまい広域本所
北海道勇払郡厚真町錦町10番地2令和5年2月10日
ホームページアドレス http://www.ja-tomakomai-kouiki.com
メールアドレス info@ja-tomakomai-kouiki.com

印刷 ■ 株式会社 須田製版

第15回農業総合研修会を開催 農業の基本土づくりと現在の食料・農業の危機について

JAとまこまい広域は12月27日、厚真町総合福祉センターで第15回農業総合研修会を開催し、組合員ら約130名が参加した。同研修会は、日々変化する農業情勢の情報共有や農業技術習得による生産性の向上を目的に平成19年から実施している。

開催に当たり主催者を代表して宮田広幸組合長は、厳しさを増す現在の農業情勢と今年のJA取扱高などを報告した上で「農業を取巻く情勢や環境の変化においては、JAグループが一丸となって国政へ要望活動を行っていきます」とあいさつした。

同研修会では、帯広畜産大学の谷昌幸教授を招きテーマ「土づくりの第一歩は土壤特性を知ることから」について講演が行われ、同JA管内の圃場は未熟火山性土が多くCEC(陽イオン交換容量)が低い傾向があると伝えられたほか、塩基飽和度のバラン

スが1番大事であり60%~80%に高めることが必要であると付け加えられた。東京大学大学院の鈴木宣弘教授はテーマ「食料・農業危機の打開に向けて」を事前に録画した動画を放映した。日本が置かれる状況が伝えられたことに加え、この危機を打開するためには国産食品を消費者には購入頂くことが重要と熱い思いを訴えた。最後に「この辛い時期ではあるが、日本の食料基地の北海道には日本全体を守ると思って頑張ってもらいたい」とエールが贈られた。

最後に堀弘幸専務は「今回両先生の講演を参考に来年は皆様と実りある秋を迎えることと思っています」と話し同研修会は終了した。



▲宮田組合長の開催挨拶



▲質問に答える谷教授

理事会報告

令和4年12月23日(金)に総合営農センターで第12回理事会が開催され、次の事項について報告、承認がされました。



- 一般報告と当面する諸行事について
- 11月末の財務報告について
- 組合員の異動について
- 固定資産の取得、処分について
- 経営定期点検の結果について
- 第3四半期余裕金運用状況について
- 役員推薦委員会の選任について
- 第3四半期定期監事監査の結果について
- 令和4年度組合員懇談会の意見集約について



- 議案第1号 理事会選出役員推薦委員会の選任について
※丹羽地区担当理事を選任致したい
- 議案第2号 役員報酬審議委員会の選任について
- 議案第3号 文書管理規程の一部変更について
- 議案第4号 規程類管理規程の一部変更について
- 議案第5号 令和5年度内部監査計画について
- 議案第6号 出資の減口と譲渡について

- 家畜共進会・枝肉共励会の結果報告について
- 令和5年度生乳生産計画について
- 令和3年産米の精算について
- Aコープ歳末謝恩大売出し実施計画について
- 決算実地棚卸立会について
- 水田活用直接支払交付金の対応について
- 产地パワーアップ事業について
- その他(管理委員会・生産委員会)



▲馬鈴薯の選果施設を見学する青年部員たち

J.A.士幌町本所にて、同協議会の大規模産地ならではの特色や運営方法を学んだほか、運用する馬鈴薯の取り扱い品種やその特徴について担当者の話をつかがつた。また、馬鈴薯の選果施設を視察し、機械化の進んだ効率的な管理システムを目の当たりにした。

視察を終えて東川忠矢支部長は、「畑馬鈴薯の選別・保管・流通システムを作先進地域のICTや高度に効率化された馬鈴薯の選別・保管・流通システムを肌で感じ、私たちも時代に取り残されないよう頑張らなければならぬ」と意気込みを語った。



▲士幌町農協本所にて記念撮影



▲(株)saigo(集合写真)



▲連棟ハウスの見学

青年部穂別支部は九州視察研修を11月24日～26日までの2泊3日で実施し、部員19名が参加した。

同視察研修は部員の知識を深め、今後の青年部活動と農業経営に寄与することを目的とした同研修は、新型コロナウィルスの影響もあって3年ぶりの開催となつた。

今年の視察先には国内有数の馬鈴薯産地である土幌町を選定し、土幌町農協を中心とした近隣5J.A.による馬鈴薯施設運営協議会の選果施設を見学した。

J.A.士幌町本所にて、同協議会の大規模産地ならではの特色や運営方法を学んだほか、運用する馬鈴薯の取り扱い品種やその特徴について担当者の話をつかがつた。また、馬鈴薯の選果施設を視察し、機械化の進んだ効率的な管理システムを目の当たりにした。

視察を終えて東川忠矢支部長は、「畠馬鈴薯の選別・保管・流通システムを作先進地域のICTや高度に効率化された馬鈴薯の選別・保管・流通システムを肌で感じ、私たちも時代に取り残されないよう頑張らなければならぬ」と意気込みを語った。

視察研修では本当に多くのことを学びました。九州の気候は想像以上に北海道と違った点が多く印象に強く残りました。また研修先の方と交流を経ることで新たな繋がりを得ることができ、本当に有意義な視察研修になりました。今後はこの貴重な経験を自分の農業のより一層の発展に貢献していきたいです」と意気込みを語ってくれた。

厚真

効率的な機械化管理システムを目当たりに

士幌町農協の馬鈴薯施設を視察

11月28日～29日にかけて、青年部厚真支部の道内視察研修が実施され、盟友15名が参加した。青年部員の知識を深め、今後の青年部運動と農業振興に寄与することを目的とした同研修は、新型コロナウィルスの影響もあって3年ぶりの開催となつた。

今年の視察先には国内有数の馬鈴薯産地である土幌町を選定し、土幌町農協を中心とした近隣5J.A.による馬鈴薯施設運営協議会の選果施設を見学した。

J.A.士幌町本所にて、同協議会の大規模産地ならではの特色や運営方法を学んだほか、運用する馬鈴薯の取り扱い品種やその特徴について担当者の話をつかがつた。また、馬鈴薯の選果施設を視察し、機械化の進んだ効率的な管理システムを目の当たりにした。

視察を終えて東川忠矢支部長は、「畠馬鈴薯の選別・保管・流通システムを作先進地域のICTや高度に効率化された馬鈴薯の選別・保管・流通システムを肌で感じ、私たちも時代に取り残されないよう頑張らなければならぬ」と意気込みを語った。

穂別

九州視察研修を実施

青年部穂別支部

青年部穂別支部は九州視察研修を11月24日～26日までの2泊3日で実施し、部員19名が参加した。

同視察研修は部員の知識を深め、今後の青年部活動と農業経営に活かしていくことを目的に前回の海外ベトナム視察以来から計画されており、直売所や栽培施設など計4カ所の視察を行った。

視察先の一つである合同会社U.T.O.は農家の勉強会からスタートした組織で、それぞれが違う農産物を生産することで、各自の繁忙期をずらし人材共有を可能にしている。

チームとして農業を進めていくメリット・デメリットについて、熱く語つてくれた。菊地支部長は「今回の視察研修では本当に多くのことを学びました。九州の気候は想像以上に北海道と違った点が多く印象に強く残りました。また研修先の方と交流を経ることで新たな繋がりを得ることができ、本当に有意義な視察研修になりました。今後はこの貴重な経験を自分の農業のより一層の発展に貢献していきたいです」と意気込みを語ってくれた。

地域の話題をパチリと

カメラレポート

3年ぶり有意義な道内視察研修となる

JAとまこまい広域青年部早来支部事業「道内視察研修」

北海道肥料株式会社では工場見学をした後、夕方の仕事に間に合うように16時30分まで帰宅という行程で行われた。

北海道肥料株式会社では工場見学をした後、講習が行われた。工場見学では、製品として完成し出荷されるまでの工程を間近で見る事が出来た。講習は、北海道肥料株式会社の寺村氏に「Dd肥料」と題して、Dd肥料とは何かを紹介や質疑応答があつた。

新型コロナウイルス感染症拡大の防止の観点から、令和2年度と令和3年度は中止となつており3年ぶりの開催となつた。8名と例年より参加者は少なかつたが、工場見学や講習も部員たちは意欲的に参加し、とても有意義な道内視察研修となつた。

1箇所目は、恵庭に本社を構える「コーンズ・エージー」を視察。海外メーカーのトラクターを見て、興味津々に見入っていた部員達。中には「ここまでかいのはいらないわ」と苦笑している部員もいた。

2箇所目は、札幌に移動し「日の丸産業社」を視察。肥料情勢や、葉面散布剤「クロロゲン」の使い方と効果についての座学講習を行つた。昨今、肥料が高騰していることや、これからの農業情勢にも興味を持つている部員達が多く、講習終了間際には、多くの質問が飛び交つていた。

2日目は、北広島西の里にある「テクノロジーファーム」を視察。様々なドローンや無人ヘリが展示されている格納庫の操作方法を指導してもらいながら、自ら視察に加えドローンサッカーにも挑戦。コントローラーを持ち操縦し対戦した。

2年ぶりとなつた青年部追分支道内視察研修だったが、今後の農業に役立つすごく貴重な時間となつた。



朝夕の仕事があるため毎日帰りの研修としており、朝の搾乳終了後、10時00分に集合し、室蘭市に朝夕の仕事があるため毎日帰りの研修としており、朝の搾乳終了後、10時00分に集合し、室蘭市に



▲成型前の化成肥料

追分

青年部追分支部 道内視察研修

農業に役立つ時間となつた

青年部追分支部は、令和2年より新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、開催を中止していた道内視察研修を12月12日から13日にかけて2年ぶりに実施し、9名の部員が参加した。

1箇所目は、恵庭に本社を構える「コーンズ・エージー」を視察。海外メーカーのトラクターを見て、興味津々に見入っていた部員達。中には「ここまでかいのはいらないわ」と苦笑している部員もいた。

2箇所目は、札幌に移動し「日の丸産業社」を視察。肥料情勢や、葉面散布剤「クロロゲン」の使い方と効果についての座学講習を行つた。昨今、肥料が高騰していることや、これからの農業情勢にも興味津々に見入っていた部員達。中には「ここまでかいのはいらないわ」と苦笑している部員もいた。

2日目は、北広島西の里にある「テクノロジーファーム」を視察。様々なドローンや無人ヘリが展示されている格納庫の操作方法を指導してもらいながら、自ら視察に加えドローンサッカーにも挑戦。コントローラーを持ち操縦し対戦した。

2年ぶりとなつた青年部追分支道内視察研修だったが、今後の農業に役立つすごく貴重な時間となつた。



青年部追分支部は、令和2年より新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、開催を中止していた道内視察研修を12月12日から13日にかけて2年ぶりに実施し、9名の部員が参加した。

1箇所目は、恵庭に本社を構える「コーンズ・エージー」を視察。海外メーカーのトラクターを見て、興味津々に見入っていた部員達。中には「ここまでかいのはいらないわ」と苦笑している部員もいた。

2箇所目は、札幌に移動し「日の丸産業社」を視察。肥料情勢や、葉面散布剤「クロロゲン」の使い方と効果についての座学講習を行つた。昨今、肥料が高騰していることや、これからの農業情勢にも興味津々に見入っていた部員達。中には「ここまでかいのはいらないわ」と苦笑している部員もいた。

2日目は、北広島西の里にある「テクノロジーファーム」を視察。様々なドローンや無人ヘリが展示されている格納庫の操作方法を指導してもらいながら、自ら視察に加えドローンサッカーにも挑戦。コントローラーを持ち操縦し対戦した。

2年ぶりとなつた青年部追分支道内視察研修だったが、今後の農業に役立つすごく貴重な時間となつた。

青年部追分支部は、令和2年より新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、開催を中止していた道内視察研修を12月12日から13日にかけて2年ぶりに実施し、9名の部員が参加した。



ほし いくと
星 郁人さん(27歳) むかわ町穂別仁和

就農のきっかけ
星さんは「会社勤めの時は、毎日帰りが遅く、時間に追われる日々でした」と話す。その中で親の仕事を手伝いに来ていた時のことを思い出し、「自然に囲まれてゆつたりと過ごしたいと考えるようになった」と話す。

実際に就農してみて
星さんの家は現在、水稻・南瓜・メロン等をメインに作付している。「まだまだ経験が浅いため、苦労することが多いけど、自分が作った物を美味しいと言つてももらえることが励みになつているため頑張れます」と笑顔を見せた。



最後に「今の経営や生活ができているのは家族のおかげ、家族がいてくれることに日々感謝しながら、今後も農業を続けていきたい」と話してくれた。

和牛部門にて受賞続々

○各枝肉共励会にて入賞

令和4年11月に開催された各枝肉共励会においてJAとまこまい広域生産者より出品された枝肉が入賞した。
北海道枝肉共励会については令和2年度以来2年ぶりの受賞となった。

令和4年11月19日開催 場所 北海道畜産公社 十勝工場
令和4年度 日胆黒毛和種枝肉共励会 出荷頭数 30頭 内JA 14頭
令和4年11月26日開催 場所 北海道畜産公社 十勝工場
令和4年度 北海道枝肉共励会 黒毛和牛の部 出荷頭数 138頭 内JA 9頭

入賞牛一覧

北海道枝肉共励会 黒毛和牛の部

順位	支 所	出陳者 氏名	名 号	性 別	出荷月齢	枝肉重量	BMS	等 級	血 統
優秀賞 2席	白老支所	(有)北那須 ETサービス	花 国	去勢	29.1才月	558kg	12	A-5	花国安福×安福久 × 平茂勝

日胆黒毛和種枝肉共励会

順位	支 所	出陳者 氏名	名 号	性 別	出荷月齢	枝肉重量	BMS	等 級	血 統
優秀賞 1席	白老支所	大浦 夕輝	汐69	去勢	28.0才月	476kg	12	A-5	知恵久×美國桜 × 平茂勝
優秀賞 3席	白老支所	大浦 夕輝	汐61	去勢	30.6才月	520kg	12	A-5	美津利奈×美國桜 × 安福久



◀北海道枝肉共励会で優秀賞2席を獲得した
(有)北那須ETサービスさん㊨と日胆黒毛和種
枝肉共励会で優秀賞1席と3席を獲得した
大浦夕輝さん㊨

○分娩間隔・飼養管理技術の部で9年連続受賞

分娩間隔の育種価評価(令和4年4月評価)において、組合内の農家による農家の効果が高かつた全国の5和牛改良組合(分娩間隔・飼養管理技術の部)に全国和牛登録協会より表彰を受けた。

安平町和牛生産改良組合
全国和牛登録協会 分娩間隔・飼養管理技術の部受賞 9年連続9回目



◀分娩間隔・飼養管理技術の部を受賞し表彰を
受けた、鍋野高志さん㊨と小西和也さん㊨



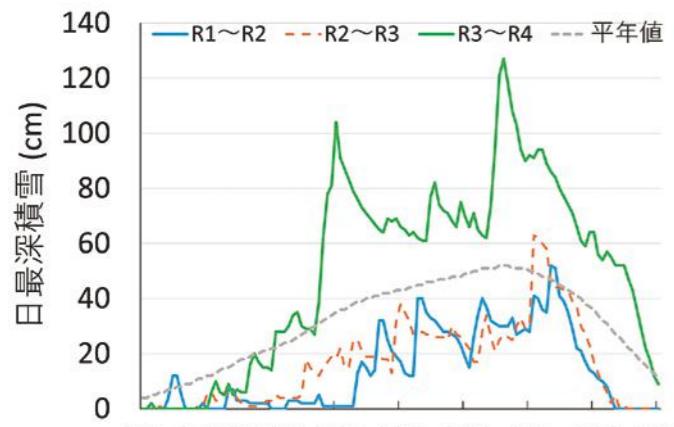
土壤凍結深と野良イモの駆除について

1 土壤凍結深と積雪量の関係

普及センターとクリーン農業係にて、令和元年度冬から、地域の土壤凍結深を調査しました(写真1)。

土壤凍結深は、積雪が少ない年(令和元、2年度)で30cm以上と深く、積雪が100cm以上と多雪となった昨年度は、最大5cm程度と浅くなりました(グラフ1、2)。

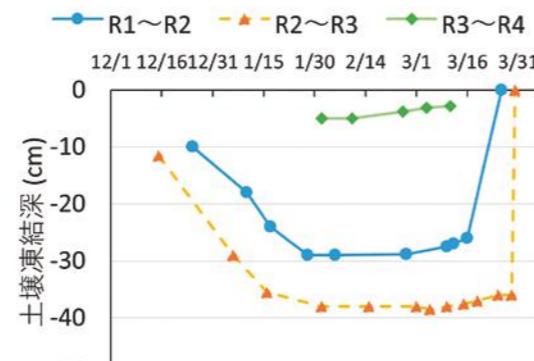
積雪量が浅くなるほど、土壤凍結深が深くなる傾向にあるといえます。



グラフ1 令和元年～4年積雪深推移
(地点:安平 気象庁過去データより作成)



写真1 凍結深調査の様子
(左:地中の凍結管 右:凍結管内部)



グラフ2 令和元年～4年土壤凍結深の推移
(安平町にて調査)

2 土壤凍結深が及ぼす影響(野良イモの抑制など)

土壤凍結深は、ほ場に対して様々な影響を及ぼすことが知られています(図1)。特に野良イモの駆除(写真2)は多大な労力が費やされるため、積雪量が多い場合は、「雪ふみ」や「雪割り」などで凍結深をコントロールする技術が有望です。

今後は、これら技術の地域適応性について、確認していくたいと思います。



図1 土壤凍結深の影響について



写真2 野良イモの発生

ワンポイント営農情報

令和4年度 クリーン農業係実施の試験実績報告

令和4年度、クリーン農業係が実証した各種試験事業の実績の一部(R4.7紹介)を紹介致します。

●水稻除草剤試験(初期剤)

試験課題	新規水稻除草剤によるホタルイに対する効果確認。 薬剤名:ピリカムイZフロアブル・シンズイZ豆つぶ 対象薬剤:エンペラー豆つぶ	効果判定 <input checked="" type="radio"/>
------	---	--

●水稻、殺虫剤新規箱処理剤の効果確認

試験課題	新規水稻箱処理剤によるイネドロオイムシに対する効果を確認する。 薬剤名:ヨーバルキング 対象薬剤:バズ顆粒水和剤	効果判定 <input type="radio"/>
------	---	-------------------------------

●大豆、既存除草剤併用による効果確認(R3継続)

試験課題	一年生雑草に対する既存除草剤の併用(フルミオWDG+デュアルゴールド)効果確認。 対象薬剤:ラクサー乳剤	効果判定 <input type="radio"/>
------	---	-------------------------------

●秋まき小麦、新規除草剤の効果確認

試験課題	大豆間作麦における越冬前のイネ科雑草の抑制効果検証。 ガルシア・トレファノサイドそれぞれの効果検証	効果判定 <input type="radio"/>
------	--	-------------------------------

●南瓜、肥効調節型肥料の効果確認

試験課題	追肥作業の低減と地域に適した緩効性タイプ(緩行効果)の検討。ウレアホルム入肥料全層施用。 対象:慣行施肥	効果判定 <input checked="" type="radio"/>
------	--	--

●ブロッコリー、干ばつ時の乾燥抑制剤効果試験

試験課題	バイオスティミュラント(植物活性剤)利用による高温・乾燥に対する耐性の効果確認。	効果判定 <input type="radio"/>
------	--	-------------------------------

●その他、試験事業項目(クリーン農業係主体)

- ☆ 土中凍結・土中温度調査
- ☆ 大豆・腐植酸資材効果確認
- ☆ 秋小麦・東農大協同実証試験
- ☆ てん菜・高窒素肥料の効果確認
- ☆ 南瓜根域調査
- ☆ ホウレンソウ・連作障害低減試験
- ☆ トマト・培地養液栽培
- ☆ てん菜後作大豆・肥効調節型肥料試験

本年度の試験結果につきましては、各振興会・部会総会にて詳細を発表致します。併せて、令和5年3月頃、JAホームページ「組合員専用」のページでも紹介致します。

シリーズNO.36 おいしい米づくり

～施肥設計の見直しで効率的に良食味米生産を～

昨年は、初期生育の遅れによる影響が心配されたものの、やや後出来傾向で粒数が確保され、8月中旬以降の断続的な高温で登熟も進み、作況は105の「やや良」(農政事務所発表:胆振・日高地区)となりました。低タンパク米出荷率は、過去5カ年平均よりは高いものの、地域差が見られた年となりました。

収量や良食味につなげるには、昨年も早期に有効な粒数の確保が重要となっています。

初期生育確保には、苗づくり・移植まで作業がポイントとなります。もう一度、作業の再確認を行ってみましょう。

また、昨年は早期からの倒伏が見られ、歩留りや品質への影響が見られています。多くの方が水田の土壤診断を行っていることと思いますが、昨年の本田の生育状況と併せて、施肥の再検討も行いましょう。

※施肥窒素量改善の目安※

生育の特徴	施肥・管理の改善方向
初期生育が劣ったほ場(幼穂形成期頃に平均一株茎数20本未満)	側条施肥の増肥(窒素量1.0kg/10a以内)または側条施肥割合の増加
出穗直前の生育も小出来となったほ場	全層施肥の増肥(窒素量1.0kg/10a以内)
タンパク値の高いほ場やなびきの見られたほ場	全層施肥の減肥(窒素量1.0kg/10a以内)

令和3年産 一般米共計勘定収支内訳

○入金 (消費税込み)

区分	販売先	金額	販売俵数	1俵あたり単価
一般米	ホクレン	2,190,167,001	175,274.5	12,496
	JA店舗	71,165,238	5,706.5	12,471
	商 社	145,037,628	12,964.0	11,188
合 計 ①		2,406,369,867	193,945.0	12,407

※ホクレン金額には出荷確約金・加算金(48,775,413円)を含む

○精算

区分	金額	精算俵数	1俵あたり単価
一般米	2,406,367,770	193,945.0	12,407
合 計 ②	2,406,367,770	193,945.0	12,407

合計残余金①-② 2,097

※残金については、農産雑収益に繰り入れ。

※JA共計費用@760円/俵(税込み)については別途徴収
(JA手数料@285・荷役料@347・保険料等@9・検査料@50(税別))

令和3年産 一般米精米勘定収支内訳

○入金 (消費税込み)

項目	金額	摘要
販売金額	73,994,119	うるち米5,706.5俵・もち米55.5俵
合 計	73,994,119	

○支出

項目	金額	摘要
うるち原料代金	64,928,100	うるち米5,706.5俵
もち原料代金	659,340	もち米55.5俵
荷役料	1,665,218	
精米・色選料	35,432	
包装資材料		
諸経費	468,891	消費者協会・店舗助成
合 計	67,756,981	

残余金 6,237,138 共計勘定へ繰り入れ

令和3年産 大豆 共計精算報告

○共計精算数量 (単位:俵)

品種	区分	入庫数量				
		1等	2等	3等	特定加工用	合計
ユキホマレ	大粒		13,805.0	1,247.0	1,485.0	16,537.0
	中粒			4,370.0	147.0	4,517.0
	(小粒)				904.5	904.5
スズマル	小粒	7,453.0		996.5		8,449.5
	極小粒			960.5		960.5
	(小粒)			349.5		349.5
ユキシズカ	小粒	8,089.5	2,218.0	627.0	562.0	11,496.5
	極小粒			1,111.0	85.0	1,196.0
	(小粒)			290.0	251.0	541.0
合 計		15,542.5	16,023.0	9,951.5	3,434.5	44,951.5

○精算単価 (単位:円/俵) (消費税込み)

品種	区分	共計精算単価			
		1等	2等	3等	特定加工用
ユキホマレ	大粒		9,816	9,576	9,336
	中粒			9,190	8,950
	(小粒)				8,198
スズマル	小粒	7,682		7,202	
	極小粒			6,816	
	(小粒)			6,064	
ユキシズカ	小粒	7,320	7,080	6,840	6,600
	極小粒			6,454	6,214
	(小粒)			5,702	5,462

○精算金額 (単位:円) (消費税込み)

品種	区分	共計精算金額				
		1等	2等	3等	特定加工用	合計
ユキホマレ	大粒		135,509,880	11,941,272	13,863,960	161,315,112
	中粒			40,160,300	1,315,650	41,475,950
	(小粒)				7,415,091	7,415,091
スズマル	小粒	57,253,946		7,176,793		64,430,739
	極小粒			6,546,768		6,546,768
	(小粒)			2,119,368		2,119,368
ユキシズカ	小粒	59,215,140	15,703,440	4,288,680	3,709,200	82,916,460
	極小粒			7,170,394	528,190	7,698,584
	(小粒)			1,653,580	1,370,962	3,024,542
合 計		116,469,086	151,213,320	81,057,155	28,203,053	376,942,614

JA手数料 @322円/60kg (10%税別)については別途徴収

JA日誌

2023 2月

16日(木)	第24回全国果樹技術・経営コンクール表彰式(東京)
17日(金)	4地区組合長会議(札幌)、ALM委員会、コンプライアンス委員会
18日(土)	
19日(日)	
20日(月)	第1回企画会議、厚真町農業再生協議会(予定)
21日(火)	北農健保組合会(札幌)
22日(水)	第1回理事会及び第1回監事会
23日(木)	
24日(金)	第2回役員推薦会議
25日(土)	
26日(日)	
27日(月)	第1回管理委員会及び生産委員会
28日(火)	白老町長選挙(告示)

2023 3月

1日(水)	広域女性部総会
2日(木)	JAグループ北海道 合同採用説明会(札幌ビューホテル)
3日(金)	第2回理事会、第1回経営指導委員会
4日(土)	
5日(日)	白老町長選挙
6日(月)	みのり監査期末II及び決算監事監査~10日
7日(火)	
8日(水)	広域米畑作振興会総会
9日(木)	ホクレン肉牛市場、監事団と常勤理事意見交換会
10日(金)	ホクレン乳牛市場、第2回企画会議、監査講評
11日(土)	
12日(日)	
13日(月)	
14日(火)	
15日(水)	年金友の会 湯治温泉旅行~17日(登別)

※新型コロナウイルスの影響により中止となる場合がありますのでご了承下さい。

JA からのお知らせ

人事異動 退職 お疲れ様でした

1月31日付
白老支所 三河 真奈美 平成28年4月1日入組
白老支所金融共済課金融共済係を務め退職。

お悔やみ 謹んでご冥福をお祈りいたします。

月 日	地 区	氏 名	享 年
12/6	厚真町	佐藤政次郎さん	96
12/12	苦小牧市	山本 秀司さん	72</